

福島再生加速化交付金(福島定住等緊急支援)  
/福島定住等緊急支援交付金

定住緊急支援事業計画の実績に関する評価

平成28年12月  
福島県 鏡石町

(様式1)

定住緊急支援事業計画に基づく事業等の評価一覧

平成28年12月時点

1)事業の実施概要

(単位:千円)

Table with 12 columns: No., 事業番号(注1), 事業名(注2), 地区名施設名, 基幹/効果促進, 事業実施主体, 全体事業費(注3), 全体事業期間(注4), 年度事業費(注5) (平成25年度, 平成26年度, 平成27年度), 評価実施時期(注6), その他. Rows 1-8.

2)事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標(注7)

Table with 10 columns: 指標, 従前値 (基準年度), 目標値 (目標年度), 実施後の値 (確認年度), 達成度, モニタリング方法, 効果発現要因(総合所見), 今後の対応, 備考(注8). Rows 目標1-5.

3) その他目標(2)に掲げたもの以外の目標(注7)												
	指標	従前値		目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)
		基準年度		目標年度		確認年度						
目標1	ふれあいの森公園遊具利用者数(4月～11月) (アスレチック遊具・人工芝滑り台)	2,805	H22	4,000	H28	11,557	H28	732%	利用者数実数調査	講習会及びパンフレットの効果により、大幅な利用者数の増加を確認	今後も利用促進のためパンフレット更新等を行い町民に広く周知し子どもの運動機会の増加に努めていく。また、子どもの安全のために更新した遊具の定期点検等を実施していく。	A-1-1 ◆A-1-1-1 ◆A-1-1-2
目標2	鳥見山多目的広場利用者数(中学生以下) (4月～11月)	5,285	H24	7,335	H28	9,719	H28	216%	利用者数実数調査	年間を通じて利用が可能となり、利用者が増加を確認	今後も引き続き、利用者の増加を図るため、施設の維持管理及び周知に努める。	C-1-1 ◆C-1-1-1
目標3	鳥見山テニスコート利用者数(中学生以下) (4月～11月)	6,585	H25	6,770	H28	6,780	H28	105%	利用者数実績調査	年間を通じて利用が可能となり、利用者が増加を確認	今後も関係団体と連携し定期的な練習での使用や、教室の開催などの利用促進を図る。	B-1-1
目標4												
目標5												

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は定住緊急支援事業計画に記載された事業名を記載する。

(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費と交付対象事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注4)「全体事業期間」は、事業着手年度から全ての事業内容が完了する年度までを記載する。

(注5)「年度事業費」は、事業着手から事業完了年度までの各年度の交付対象事業費と全ての事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注6)「評価実施時期」は、定住緊急支援事業計画に基づく事業等が完了した日の属する年度の翌年度の12月末日までの実施した時期を記載する。

(注7)2)には定住緊急支援計画に記載した内容を、3)には定住緊急支援計画に全く記載をしていないものの、今回の整備により期待される効果があれば記載する。

なお、A-1,B-1,2,C-1事業については、子どもたちが十分に運動する機会の確保の観点、C-2,C-3については子育て世帯の定住に資する観点から、維持管理や運営の視点、ソフト事業との相乗効果などの面も含め目標を記載する。

(注8)「備考」の欄には、当該目標の評価対象となる事業番号を記載する。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25年度～平成26年度	交付対象事業費	104,643 千円
市町村名	鏡石町	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	A-1-1、◆A-1-1-1、◆A-1-1-2

## 1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

原発事故に伴い、子育て世代においては、子育てに不安を抱えているところであり、不安の解消と安心して外遊びができる環境を整備するため、ふれあいの森公園のアスレチック施設と滑り台の更新を行い、避難者の早期帰還と遊びを通じての子ども達の体力向上に努めることを目標とする。

### 【区域全体図】



### 【事業詳細】

#### (1)事業概要

既存のアスレチック遊具と人工芝滑り台について、イメージの向上と今後の利便性を図り、地域の子どもが安全で安心できる運動機会の場として整備し、なおかつ子育て世帯が安心して利用できる環境を整える。

- 鏡石町ふれあいの森人工芝滑り台人工芝更新工事 人工芝A=1,184.1㎡
- 鏡石町ふれあいの森アスレチック遊具設置工事 アスレチック遊具12基+コンビネーション遊具1基、他付属施設

#### <効果促進事業 A-1-1-1>

整備した遊具の設置個所が把握できる案内板及びアスレチック銘板を設置し、より利用しやすい施設とした。

- ・鏡石町ふれあいの森アスレチック案内板等設置工事 案内板 1基 アスレチック銘板 12基

#### <効果促進事業 A-1-1-2>

より利用しやすいものとするために、遊具の安全な遊び方について、当町において子供たちの校外活動の重要な役割を担う「かがみいしスポーツクラブ」が、幼稚園・保育所・小学校児童及び教諭・保育士等に対し、安全な遊び方を指導講習と遊び方のパンフレットを作成し、子ども達の体力づくりを図った。

#### 【事業の実施内容】

- 人工芝滑り台、アスレチック遊具安全で効果的な遊び方指導講習会 6回
- 人工芝滑り台、アスレチック遊具安全な遊び方のパンフレット作成 3,000部

#### (2)事業の実施状況

基幹事業である2つの更新工事と効果促進事業の案内板等設置工事は平成26年6月に完了し、同7月には当該公園を再オープンさせ、同時期より効果促進事業である、遊び方講習会、パンフレットの作成を行った。平成27年には利用者アンケートを実施し、遊具を更新したことで、以前と比べ利用回数が増えたと答えた方は44.1%と約半数であったこと、また、利用者数も2,805人(H22)から11,557人(H28)と大幅な増加が見られた事からも、運動機会増加が促進された。

#### (3)人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

震災前の平成22年10月の人口12,815人から本事業の開始前の平成25年10月の現住人口を比較すると227人、率にして1.77%が減少した。平成28年10月の現住人口では、12,430人と減少傾向ではあるが、減少率は対前年比で0.4%の減にとどまっている。また、全国避難者情報システム(平成24年10月現在)では、104名が北海道をはじめ全国に自主避難をしていたが、平成28年10月現在では、引き続き85人が避難しているが、徐々に帰還してきている。このことから、安心して子供たちが活動することができる環境を整え人口の流出に歯止めの効果が見られる。

子ども達の活動の場を確保され、肥満度もH24年度の15.7%からH28年度には、14.1%まで改善されたが、全国平均9.4%より高割合である。体力・運動能力調査結果においては、総合評価C以上の割合が、H25年度69.3%からH28年度73.5%と改善されているが、全国に比べやや低い割合となっている。引き続き運動機会の確保を進める必要がある。

本事業により、原発事故に対する子どもたちの不安が解消されつつあり、避難者も徐々に町へ戻り、さらに、屋外での運動機会が確保され、心配されていた健康不安と運動能力低下が解消されてきている。

#### (4)その他

平成28年11月25日に開催された教育会議において、教育委員からの意見聴取を行い、その意見は次のとおりである。

- 現代風のものへと遊具が更新されたことにより、利用者からは好評で、利用者数も多くなっている。
- 外遊びをしている子ども達が多く見られるようになってきている。
- 子ども達の肥満解消と体力向上に大きく寄与されている。
- まだまだ、利用の推進を図っていく余地はあると思われることから、学校などへの働きかけが必要である。また、広くPRをしていくことが重要である。
- 施設の利活用が継続していけるように努めていく必要がある。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

- ・ふれあいの森公園において、児童にとって魅力ある大型複合遊具や、人工芝滑り台の整備と共に、パンフレットの配布、遊び方講習会を実施した事で保護者を含め親子ぐるみでの利用を促進し、年間利用者数が、231%に増加。
- ・利用親子に対するアンケートを実施した結果、遊具を更新したことで、以前と比べ利用回数が増えたと答えた方は44.1%と約半数であったこと、また、利用者数も2,805人(H22)から11,557人(H28)と大幅な増加が見られた事からも運動機会増加の効果が表れている。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- ・利用者数の維持を継続するためにも、各種イベント等を検討し、子ども達の運動機会の増進に努めていく。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

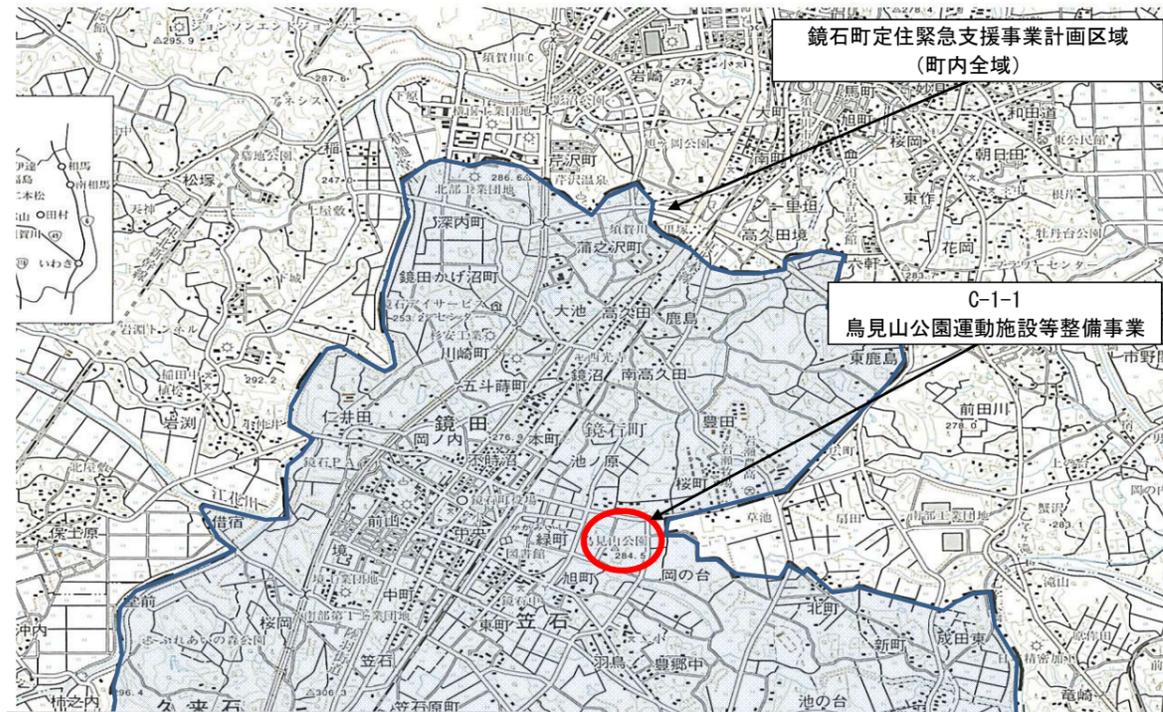
県名	福島県	交付期間	平成25年度～平成26年度	交付対象事業費	183,519 千円
市町村名	鏡石町	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	C-1-1、◆C-1-1-1

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

原発事故により、屋外スポーツの機会が減少してきている。鳥見山公園内の多目的広場は、サッカー競技を中心に利用されているが、天然芝により利用制限が設けてある。天然芝を人工芝に整備することにより、年間を通じた利用が図られ、子ども達の運動機会の増加が見込まれ、体力向上と肥満の解消を目標とする。

### 【区域全体図】



### 【事業詳細】

#### (1) 事業概要

鳥見山公園内多目的広場の天然芝を1年を通して常時利用できる施設とするため、人工芝に張替えることと、利用期間の拡大を図り、子ども達の運動機会も確保する。

鏡石町営多目的広場改修工事(人工芝張替工事A=10,564.3㎡、フェンス設置工事、設計業務委託)

#### <効果促進事業 C-1-1-1>

基幹事業の鳥見山公園運動施設等整備事業において整備した人工芝を活用したサッカーゴールポスト等の設備を設置することにより、スポーツ少年団をはじめ、多くの子どものためのサッカー競技の大会、練習会場として活用する。

サッカー用備品購入(サッカーゴールポスト、コーナーフラッグ購入)

#### (2) 事業の実施状況

鳥見山公園多目的広場改修工事 工期:平成25年12月5日～平成26年6月16日

平成26年6月21日 人工芝改修完成記念式典実施

平成26年6月22日より一般利用開始(H28.11末までの利用実績 59,764人)

利用者全体(4月～11月)では、平成24年度6,502人(うち中学生以下5,285人)・平成25年度5,682人(うち中学生以下3,782人)・平成26年度12,641人(うち中学生以下6,742人)・平成27年度20,233人(うち中学生以下9,086人)・平成28年度12,045人(うち中学生以下9,719人)と増加している。なお、平成25年1月から平成26年5月までは改修工事のため利用は中止している。

#### □記念行事

平成26年6月21日 鏡石フットボールスポーツ少年団主催交流試合

平成26年6月29日 鏡石中学校サッカー部主催交流試合

平成26年7月 5日 オリンピックデーフェスタin鏡石

町サッカースポーツ少年団(週1回)、町立中学校サッカー部(週2回)の定期利用(平成26年7月～)

町子ども会育成会対抗親善球技大会[フットサルの部](年1回、H26.27)

かがみいしスポーツクラブと連携した子供運動教室[キッズクラブ]による定期利用(月1～2回)

中学校中体連サッカー競技、スポーツ少年団主催の各種大会の実施

安定的な利用が可能となり、県内小学生サッカーの主要施設として利用されている(H28.11県大会の開催)

#### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

震災前の平成22年10月の人口12,815人から本事業の開始前の平成25年10月の現住人口を比較すると227人、率にして1.77%が減少した。平成28年10月の現住人口では、12,430人と減少傾向ではあるが、減少率は対前年比で0.4%の減にとどまっている。また、全国避難者情報システム(平成24年10月現在)では、104名が北海道をはじめ全国に自主避難をしていたが、平成28年10月現在では、引き続き85人が避難しているが、徐々に帰還してきている。このことから、安心して子供たちが活動することができる環境を整え人口の流出に歯止めの効果が見られる。

子ども達の活動の場を確保され、肥満度もH24年度の15.7%からH28年度には、14.1%まで改善されたが、全国平均9.4%より高割合である。体力・運動能力調査結果においては、総合評価C以上の割合が、H25年度69.3%からH28年度73.5%と改善されているが、全国に比べやや低い割合となっている。引き続き運動機会の確保を進める必要がある。

本事業により、原発事故に対する子どもたちの不安が解消されつつあり、避難者も徐々に町へ戻り、さらに、屋外での運動機会が確保され、心配されていた健康不安と運動能力低下が解消されてきている。

#### (4) その他

平成28年11月25日に開催された教育会議において、教育委員からの意見聴取を行い、その意見は次のとおりである。

○外遊びをしている子ども達が多く見られるようになってきている。

○子ども達の肥満解消と体力向上に大きく寄与されている。

○まだまだ、利用の推進を図っていく余地はあると思われることから、学校などへの働きかけが必要である。また、広くPRをしていくことが重要である。

○施設の利活用が継続していけるように努めていく必要がある。



多目的広場改修(人工芝張替)



H26.6.21開催 人工芝改修完成記念式典

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○鳥見山多目的広場を人工芝に改修したことにより、芝生の育成や天候に左右されることなく、定期的に利用可能になったことにより、平成24年度と比較し約2.8倍の利用者数となった。

○肥満度もH24年度の15.7%からH28年度には、14.1%まで改善された。また、体力・運動能力調査結果においては、総合評価C以上の割合が、H25年度69.3%からH28年度73.5%と改善された。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- 町内の小中学校やスポーツ少年団に引き続きPRを行い、周知と利用促進を図る。
- 総合型地域スポーツクラブなどと連携し、引き続き子ども向けのイベントや教室の開催を積極的に行い、運動機会の増加を図る。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25年度～平成26年度	交付対象事業費	97,062 千円
市町村名	鏡石町	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	A-1-2

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

町内の身近な児童公園16箇所については、気軽に遊べる場所であるが、原発事故による子育て世代である親たちが外遊びに不安を抱えている現状であり、未就学児及び小学低学年の児童を対象とした遊具を整備することで、運動機会の確保を図り、地域の多くの子どもや親子のふれあいの場所として活用することができ、安心できる遊び場として利活用を図り、低下している体力の向上を図ることを目標とする。

### 【区域全体図】



### 【事業詳細】

#### (1) 事業概要

町内の各行政区にある、身近な児童公園及び都市公園(農村公園)の中で、未就学児も利用しやすい公園の遊具類を更新することにより、地域の多くの子どもや親子が安心できる遊び場として利活用を図り、低下している体力の向上のための運動機会の場として活用する。

- ・児童公園遊具更新事業(児童公園13箇所)  
更新遊具数 更新前68基 → 更新後68基(シーソー、滑り台、ブランコ、鉄棒、ジャングルジム、回転遊具等)
- ・都市公園遊具更新事業(都市公園3箇所)  
更新遊具数 更新前13基 → 更新後5基(ブランコ、シーソー、コンビネーション遊具等)

#### (2) 事業の実施状況

平成27年2月末で全ての児童(都市)公園の遊具更新事業が完了し、新しくなった児童公園の利用促進を図った。

- ・広報かがみしによるPR(平成26年10月号 全戸配布約3,700部)
- ・子育て情報誌「すこやか通信」によるPR(平成27年3月発行全戸回覧)
- ・町内幼稚園、保育所の遠足等による児童公園の利用促進  
(町立)鏡石幼稚園、鏡石保育所 3歳～5歳児による利用(鳥見山公園内児童遊園、三区不時沼遊園地)  
(私立)認定こども園ぶどうの木 0歳～5歳児による利用(鳥見山公園内児童遊園、不時沼公園、四区前山A集会所)  
※町内の就学前の教育・保育施設(町立2か所、私立2か所)の3～5歳児(約320人)のうち約7割が、平成27～28年度の遠足等の園外保育で公園を利用している。
- ・児童館で実施している就学前の乳幼児と保護者の交流の場「つどいの広場」の子育て講座の中で、鳥見山公園内児童遊園を利用している。

#### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

震災前の平成22年10月の人口12,815人から本事業の開始前の平成25年10月の現住人口を比較すると227人、率にして1.77%が減少した。平成28年10月の現住人口では、12,430人と減少傾向ではあるが、減少率は対前年比で0.4%の減にとどまっている。また、全国避難者情報システム(平成24年10月現在)では、104名が北海道をはじめ全国に自主避難をしていたが、平成28年10月現在では、引き続き85人が避難しているが、徐々に帰還してきている。このことから、安心して子供たちが活動することができる環境を整え人口の流出に歯止めの効果が見られる。

子ども達の活動の場を確保され、肥満度もH24年度の15.7%からH28年度には、14.1%まで改善されたが、全国平均9.4%より高割合である。体力・運動能力調査結果においては、総合評価C以上の割合が、H25年度69.3%からH28年度73.5%と改善されているが、全国に比べやや低い割合となっている。引き続き運動機会の確保を進める必要がある。本事業により、原発事故に対する子どもたちの不安が解消されつつあり、避難者も徐々に町へ戻り、さらに、屋外での運動機会が確保され、心配されていた健康不安と運動能力低下が解消されてきている。

#### (4) その他

平成28年11月25日に開催された教育会議において、教育委員からの意見聴取を行い、その意見は次のとおりである。

- 現代風のものへと遊具が更新されたことにより、利用者からは好評で、利用者数も多くなっている。
- 外遊びをしている子ども達が多く見られるようになってきている。
- 子ども達の肥満解消と体力向上に大きく寄与されている。
- まだまだ、利用の推進を図っていく余地はあると思われることから、学校などへの働きかけが必要である。また、広くPRをしていくことが重要である。
- 施設の利活用が継続していけるように努めていく必要がある。

番号	児童公園名	番号	児童公園名
①	笠石杉林遊園地	⑨	旭二池遊園地
②	一区中央遊園地	⑩	成田宿屋敷遊園地
③	二区遊園地	⑪	南高久田多目的集会所遊園地
④	三区不時沼遊園地	⑫	鏡田鏡沼遊園地
⑤	四区前山A集会所遊園地	⑬	笠石児童遊園
⑥	鏡田大池地遊園地	⑭	鳥見山公園内児童遊園
⑦	高久田集会所遊園地	⑮	かげ沼公園
⑧	旭町中学校前遊園地	⑯	不時沼公園



### 事業計画推進による効果・変化(注2)

- ・児童公園の利用に関するアンケート調査を実施。町立保育所、幼稚園の3～5歳児の保護者145名対象(回答者136名:回答率93.8%)
- ・回答者の43.8%が公園の遊具更新前よりも児童(都市)公園を利用する回数が増えたと回答している。
- ・利用回数が増えた理由として、遊具が更新されただけでなく、除染が進んで放射線量が低下したという理由も多かった。
- ・子育てサークル等を利用している保護者や幼稚園、保育所の保護者からは、「安心して子どもを遊ばせることができる」という意見が寄せられている。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- ・広報紙及びHP等で遊具の更新について、再度周知を図る。
- ・町内の幼稚園、保育所、スポーツ関係団体等と連携して遊具の遊び方講座を実践することで、未就学児の体力の向上を図る。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

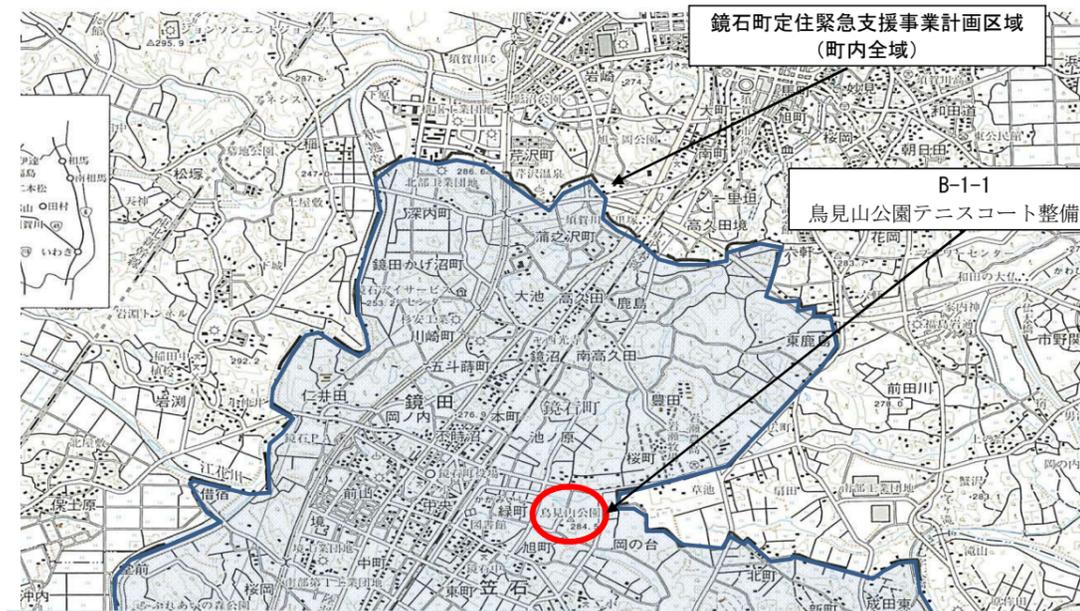
県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	51,991千円
市町村名	鏡石町	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	B-1-1

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

鳥見山公園内には、陸上競技場をはじめ様々なスポーツ施設を有しており、子ども達のみならず、町民の体力維持向上の場として利用されているところであるが、原発事故により、屋外スポーツの機会が減少してきている。当公園内の町内唯一の専用テニスコートについて、既存の舗装を砂入り人工芝に改造することで年間を通じた利用が図られ、子ども達の運動機会の増加が見込まれ、体力向上と肥満の解消を目標とする。

### 【区域全体図】



### 【事業詳細】

#### (1) 事業概要

鏡石町のほぼ中央に位置する鳥見山公園内のテニスコートの整備を行う。

- ・テニスコート改造  
整備面積: 2,938㎡
- ・ハードコート4面を砂入り人工芝テニスコート4面に改造

#### (2) 事業の実施状況

- ・鳥見山公園多目的広場改修工事 工期: 平成26年12月2日～平成27年3月24日
- ・平成27年4月 2日 人工芝改修完成記念式典実施
- ・平成27年4月 3日より一般利用開始(H28.11月末までの利用実績 29,128人)
- ・利用状況(4月～11月)は、平成25年度9,954人(うち中学生以下6,585人)・平成26年度11,434人(うち中学生以下7,339人)・平成27年度13,655人(うち中学生以下8,794人)・平成28年度12,045人(うち中学生以下6,780人)と整備前から増加している。
- なお、平成26年12月から平成27年3月までは改修工事のため利用は中止している。

#### □記念行事

平成27年10月3日 「チームダンロップ」レッスン会

#### □テニス教室

かがみいスポーツクラブと協力し小学生を対象としたテニス教室を13回実施

#### ・平成28年度

#### □テニス教室

かがみいスポーツクラブと協力し小学生を対象としたテニス教室を8回実施(4月～9月)

#### □中学校部活動

中学校部活動の練習のため週6日使用

#### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

震災前の平成22年10月の人口12,815人から本事業の開始前の平成25年10月の現住人口を比較すると227人、率にして1.77%が減少した。平成28年10月の現住人口では、12,430人と減少傾向ではあるが、減少率は対前年比で0.4%の減にとどまっている。また、全国避難者情報システム(平成24年10月現在)では、104名が北海道をはじめ全国に自主避難をしていたが、平成28年10月現在では、引き続き85人が避難しているが、徐々に帰還してきている。このことから、安心して子供たちが活動することができる環境を整え人口の流出に歯止めの効果が見られる。

子ども達の活動の場を確保され、肥満度もH24年度の15.7%からH28年度には、14.1%まで改善されたが、全国平均9.4%より高割合である。体力・運動能力調査結果においては、総合評価C以上の割合が、H25年度69.3%からH28年度73.5%と改善されているが、全国に比べやや低い割合となっている。引き続き運動機会の確保を進める必要がある。

本事業により、原発事故に対する子どもたちの不安が解消されつつあり、避難者も徐々に町へ戻り、さらに、屋外での運動機会が確保され、心配されていた健康不安と運動能力低下が解消されてきている。

#### (4) その他

平成28年11月25日に開催された教育会議において、教育委員からの意見聴取を行い、その意見は次のとおりである。

- 外遊びをしている子ども達が多く見られるようになってきている。
- 子ども達の肥満解消と体力向上に大きく寄与されている。
- まだまだ、利用の推進を図っていく余地はあると思われることから、学校などへの働きかけが必要である。また、広くPRをしていくことが重要である。
- 施設の利活用が継続していけるように努めていく必要がある。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

- テニスコートを人工芝に改修したことにより、子どもの足腰への負担を軽減し、天候に左右されることなく、安定的に利用可能になったことにより、平成25年度と比較し約1.2倍の利用者が増加した。
- 肥満度もH24年度の15.7%からH28年度には、14.1%まで改善された。また、体力・運動能力調査結果においては、総合評価C以上の割合が、H25年度69.3%からH28年度73.5%と改善された。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- 町内の小中学校やスポーツ少年団に引き続きPRを行い、周知と利用促進を図る。
- 総合型地域スポーツクラブなどと連携し、子ども向けのイベントや教室の開催を積極的に行い、運動機会の増加を図る。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	51,913 千円
市町村名	鏡石町	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	A-1-3

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

町内には、二つの小学校があり、授業や昼休み、さらには、放課後において、児童の体力向上のため、校庭及び遊具を設置しているところである。しかしながら、原発事故により、保護者から現施設に対し不安を抱いている現状である。各地域の児童公園は、未就学児及び小学低学年の児童を対象とした遊具を整備したものであるが、小学校に設置する遊具については、小学高学年までを対象とし、併設している放課後児童クラブや子どもの居場所づくり事業として、放課後や夏休みなどにおいても活用されることから、子ども達が安心して遊べる場所として整備し、体力向上を図ることを目標とする。

### 【区域全体図】

鏡石町定住緊急支援事業計画区域 (町内全域)

A-1-3 公立学校の遊具更新事業 【町立第一小学校】

A-1-3 公立学校の遊具更新事業 【町立第二小学校】

更新した遊具で、休み時間などに遊ぶ第一小学校の児童 (平成27年7月撮影) ==

更新した遊具で、休み時間などに遊ぶ第二小学校の児童 (平成27年7月撮影)

### 【事業詳細】

#### (1) 事業概要

小学生を中心に慣れ親しんでいる小学校校庭に設置されている遊具を更新し、小学校の授業の一環として、低下している体力の向上や運動習慣の定着のための運動機会の場として活用する。また、放課後児童クラブや子どもの居場所づくり授業により、平日の放課後や夏休み等の長期休暇時に利用する小学低学年から高学年までの多くの児童の運動機会の確保を図る。

- 1 鏡石町立第一小学校; 更新遊具数 更新前14基 更新後13基
- 2 鏡石町立第二小学校; 更新遊具数 更新前15基 更新後11基

#### (2) 事業の実施状況

- 1 鏡石町立第一小学校  
完成時期 平成27年6月30日  
更新遊具数 13基  
児童数 605人(放課後児童クラブ登録児童数 135人)
- 2 鏡石町立第二小学校  
完成時期 平成27年6月30日  
更新遊具数 11基  
児童数 140名(放課後児童クラブ登録児童数 41人)

学校では、体育の授業や休み時間等において利用している。また、放課後児童クラブでも、平日の放課後や夏休み等の長期休暇において利用している。

#### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

震災前の平成22年10月の人口12,815人から本事業の開始前の平成25年10月の現住人口を比較すると227人、率にして1.77%が減少した。平成28年10月の現住人口では、12,430人と減少傾向ではあるが、減少率は対前年比で0.4%の減にとどまっている。また、全国避難者情報システム(平成24年10月現在)では、104名が北海道をはじめ全国に自主避難をしていたが、平成28年10月現在では、引き続き85人が避難しているが、徐々に帰還してきている。このことから、安心して子供たちが活動することができる環境を整え人口の流出に歯止めの効果が見られる。

子ども達の活動の場を確保され、肥満度もH24年度の15.7%からH28年度には、14.1%まで改善されたが、全国平均9.4%より高割合である。体力・運動能力調査結果においては、総合評価C以上の割合が、H25年度69.3%からH28年度73.5%と改善されているが、全国に比べやや低い割合となっている。引き続き運動機会の確保を進める必要がある。本事業により、原発事故に対する子どもたちの不安が解消されつつあり、避難者も徐々に町へ戻り、さらに、屋外での運動機会が確保され、心配されていた健康不安と運動能力低下が解消されてきている。

#### (4) その他

平成28年11月25日に開催された教育会議において、教育委員からの意見聴取を行い、その意見は次のとおりである。

- 現代風のものへと遊具が更新されたことにより、利用者からは好評で、利用者数も多くなっている。
- 外遊びをしている子ども達が多く見られるようになってきている。
- 子ども達の肥満解消と体力向上に大きく寄与されている。
- まだまだ、利用の推進を図っていく余地はあると思われることから、学校などへの働きかけが必要である。また、広くPRをしていくことが重要である。
- 施設の利活用が継続していけるように努めていく必要がある。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

- 小学校の遊具を更新したことにより、休み時間や放課後など、更新した遊具で遊ぶ低学年から高学年までの児童が増加しており、体力向上につながっている。
- 肥満度もH24年度の15.7%からH28年度には、14.1%まで改善された。また、体力・運動能力調査結果においては、総合評価C以上の割合が、H25年度69.3%からH28年度73.5%と改善された。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- 小学校の遊具を更新したこと及び休日等に校庭を開放していることについて、広報誌等により周知し、休日等の利用促進を図る。
- 遊具の更新により、休み時間や放課後に外遊びをする児童が増加し、体力向上につながっているため、遊具を利用した外遊びの奨励を各学校に呼びかけるなど運動機会の確保を図る。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。